

# みかづきさま 三日月様

小倉の里に三日月様と呼ばれる石仏があります。いつのころか定かではないのですが、言い伝えによりますと、明治時代以前からあったのだとのこと。石仏は、二体あり、一体は参拝者が石仏全体を布で覆ったため、長い間尊顔を拝することができなくなっています。もう一体は直径二十センチ程の球形で三日月の紋様が刻まれています。きて、この石仏は、初めは子育ての神であったといわれていました。それがいつのころからか願い事をかなえてくれる石仏になっていったようです。

参拝者は願い事を唱えながら、この石仏を持ち上げます。軽々と持ち上がれば願い事がかない、重たく感じたときは、願い事はかなわないといわれていました。

ある日のこと、我が子が重い病にかかり悩んでいた夫婦が、三日月様にお参りにきました。そして、

「三日月様や、おらげのせがれの病気がなかなかよくなんねえんだ。どうかよくなるようにおねげえします。」

と、願い事をとねえました。そつと三日月様を持ち上



三日月様

げてみました。するとどうでしょう、三日月様は軽々と持ち上がったのです。

「三日月様、ねげえごと、聞いてくれたかや。」

と、不安そうに家に帰りました。

それからこの夫婦は一日も欠かさずお参りに来しました。お百度参りをしたのです。

すると、不思議なことに息子の病が少しずつよくなっていったではありませんか。

その後、いつしかこの夫婦はふつりとお参りにこなくなってしまいました。しかし、

息子の病が悪くなったという話はどこでも聞かれませんが、ご利益により、よくなったの

でしょう。

また、ある時、若い夫婦連れが訪れ、

「どうかよい子供をさずけてくろ。」

と、お願いをしました。そして、三日月様を持ち上げると、何と軽々と持ち上げること

ができました。若夫婦は、

「三日月様や、ありがとうござんした。」

と、礼を述べ、喜んで家路につききました。数か月たち、この若夫婦の間に玉のような男

の子が生まれ、その子はすくすくと育ちました。

それから二年の月日が過ぎ、この夫婦は再びこの三日月様を訪れ、

「今度も、よい子供をさずけてほしいんだけつとも。おたのみします。」

と、前と同じように願ひ事を唱えながら、三日月様を恐る恐るもちあげました。ところが、

「父ちゃん、何だかとても重いんだ、どうしたんだんべ。」

数か月後、二番目の子が生まれました、また、男の子でしたが、どうしたことが生まれながらに虚弱で、まもなく、重い病にかかり亡くなってしまいました。

「なあ、父ちゃん、おらたちは三日月様への信心がたんねかったんだべ。」

と、夫婦は悲しみに暮れていましたが、それから気をとりなおし事あるごとにお参りを続けたということです。

ある日のこと、近隣の村人がお参りに来たときのことです。何と三日月様のそばに

三日月様と瓜二つの石が置かれていたのです。村人は、

「あんれまあ、この石は、双子なんだべか。同じ形だなや。」

驚きの眼でながめていました。

「三日月様一人では淋しかんべ。」

と、誰かが置いたのでしよう。

以来、この石仏が願ひ事をかなえてくれるということが近隣に知れ渡り、お参りに来る人が多くなつたということです。最近では子供の入学試験の合格祈願で、お参りに訪

れる人もいるとのこと。